

R様らしい暮らしの実現 R様の思いに寄り添って

グループホームちゅーりっぷ苑
つばき Bチーム
発表者 野澤 映子

テーマとして取り上げた理由

今年度、虐待防止委員会の取り組みとして活動しました。「利用者との関わりの中でうまれる不適切な言動や行動について」を、一人ひとり実践の振り返りを行いアンケート調査しました。

調査結果⇒「スピーチロックなどR様との関わりの中で不適切な対応があるのではないか?」「R様の行動を抑制しているのではないか?」との多数の意見があり、R様らしい暮らしの実現を目的として当テーマを選定しました。

活動目標

* 目標値

R様：笑顔や穏やかな時間が増える。

職員：R様を理解して関りを持つことができる。

* 活動期間＝令和4年1月～令和4年9月。

現状把握

- ・R様、女性(76歳)前頭側頭葉型認知症(ピック病)、要介護2、令和元年7月入所。
- ・入所当初は、日常生活動作の状態も問題なく家事全般をこなしていました。
- ・言語・理解力もしっかりしていてB棟利用者の中でもリーダー的存在でした。

R様の入所当初からの比較、状態変化

- ・自立歩行が不安定になる。
- ・居室のタンスの引き出し内や洗面所のごみ箱に放尿・便をする。
- ・指に唾を付けトイレや廊下など、周囲のゴミを拾う。転倒のリスクがあり止めるよう声掛けするが言葉が伝わらず、R様の言いたいこと、職員が伝えたいことが全く通じない。
- ・他者のトイレ介助中にトイレに入ろうとする。それを注意しても伝わらず怒ってしまう。
- ・洗面所から他者の口腔ケア用品など物を持って行く。回収すると怒ってしまう。
- ・ペーパータオルやトイレットペーパーなど、衣類や下着の中に入れ隠すように持つて行く。

- ・食事の際、食事を一口だけ残す、お茶に副食を混ぜるなど、食べるよう声掛けしても食事が進まない。
- ・何を言うのでもなく、居室の扉前でずっと立っている。
- ・落ち着いて座っていられない。
- ・特定の職員に一日中付いて回る。

最近はピック病の特徴である「失語・失認」「収集行動」「こだわり」「常同行動」の症状が急速に進行してきました。少しづつR様に対して負担を感じるようになりました。

問題点

自分自身がR様に対してどう思っているか？

アンケート調査:回答者7人



- 面倒(説明しても意味不明な言動ばかり)
- イライラする(言った事が伝わらない)
- ネガティブ思考が嫌(私はダメ子の訴えばかり)
- 気の毒に思う

関わり方が不適切であったと思われる事

具体的内容	職員心理
話の途中で理解できないと「はいはい大丈夫」等、流すように返事をする	面倒
面倒な事を話すと適当に相槌を打つ	面倒
R様が一生懸命話しているのに内容が理解できずに中断させてしまう	面倒
ウロウロしていると、つい「イスに座ってましょう」と制限してしまう	面倒
歩行が遅いため、急いでいる時に腕を引っ張るように歩いている	イライラ
「こっち来て」「座ってて」が口癖のようになっていて強い口調になる	イライラ
何かしようとしているのに説明なしに行動を抑止してしまう	イライラ
色々な物をもっていく際、説明なしに没収してしまう	イライラ
指示が入らないと言葉が乱暴になり大きくなる	イライラ
止めてくださいと言っても「止めます」とは言うが、再度続けるため注意する言葉がきつくなっている	イライラ

要因分析と改善策

*アンケート調査から、R様を面倒な人と思い込みイラして不適切な関わり方になるのではないかと考え、VIPSの視点で振り返りを行い評価することとしました。

*VIPS項目のC・D評価と評価の低かった項目の要因を導き出して改善策を検討することとしました。

VIPSとは、の別途資料参照。

VIPS評価、低評価の要因分析と改善策

V6

○要因：転倒のリスクと収集行動や常同行動があり、面倒なので立ち上がると席に座るように抑制している。

改善策①⇒何が目的で立ち上がり動くのか表情、行動から判断する。不安全行動がなければ思うように動いて頂く。

改善策②⇒直ぐに座って下さいと言わず○○だから、○○するから等、説明してから「座って下さい」と伝える。

I5

○要因:集中力が低下してきて作業を途中で止める、作業提供の回数も少なくなった。その為、R様本人は、何もしないでいる→役に立たない→駄目な人間と捉えてしまっている。(私はダメ子の訴えある)

改善策③⇒集中力が低下していて、作業が続けられなくなっている。適宜、見守り声掛けをし、一緒に作業するなどして不安なく取り組めるよう支援する。

P2

要因：意味不明な言動があり、会話が成り立たずR様の言っている事を良く聞こうとしない。理解しようとしない。

改善策④⇒隣に寄り添い会話する機会を作る。季節のこと、好きな食べ物、昔の話など。話しつけられたら一旦、手を止めきちんと話を聞く。

P6

要因：何度も言っても聞き入れてくれないので言葉が乱暴になる。声が大きくなる。

改善策⑤⇒問題行動を制止したり声掛けする時には、他の利用者も見ている、聞いている事を意識してR様の人权を守り、人格を傷つけないよう言葉を選び声掛けする。

S4

要因：「何もできない」「迷惑かける」「ダメな子」など、頻回に自己否定する。

改善策⑥⇒自己否定するような言動がある際は、「そんな事ないよ、大丈夫、大丈夫」と伝え、時には励まし、慰め自己肯定できるように声掛けする。

改善策①～⑥項目を、7／15から実践しました。

効果の確認

R様

R様の隣に座り作業や会話することで、落ち着いて過ごせることができ笑顔も増えた。

感謝の気持ちを伝える事により笑顔が増え「ダメ子だから」と言うことが減ったように感じる。

以前より職員の声掛けに対して、R様が不穏になったり表情が険しくなるなどの頻度が減ったように思う。

R様も職員の接し方や声掛けが良くなつたことにより、話が噛み合わないことも多々あるが、聞いてもらえる事や仕事がある事で張り合いがもてるようになったと感じている。

職員

時々ではあったが傍らに寄り添い会話をした。会話は成り立たなかつたないがR様の話が止まらず生き生きとした表情だった。これからも継続していきたい。

認知症状をスタッフ間よく理解して、介護側の視点だけではなくR様が必要とする生活の質を向上するためにどうしたらよいかR様の視点で考えることができた。

疾患については頭では理解しているつもりだが、自分の感情のコントロールが難しかった。

私達、介護職員は自分の感情をコントロールし、常に冷静でなければならぬと改めて感じた。

改善PR

- ・1対1でのレクで楽しんでもらおうと頑張った。
- ・他者との関りが持てるよう他者との間に入り会話する機会を作れるように配慮した。
- ・手作りのプリント(ひらがなや漢字)を作って一緒にやってみた。

全体評価

R様のストレスを軽減させ、生活の質を向上するためにどうしたら良いかチームで考えました。今回の活動がR様にとってどうだったのか表情や行動で捉えることしかできませんでしたが、VIPSの視点で日頃の実践を振り返り、情報や経験を共有することでケア向上の手がかりを見出すことができたと思います。今後も利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、関わりを大切にしながら、その人らしさのある生活を支えていけるよう、チームケアの実践に努めていきたいと思います。